計画編

第２章　重点エコプロジェクト
―力を入れて進める取組

第２章　重点エコプロジェクト

この章で掲げる「重点エコプロジェクト」は、少しずつ着実に進める取り組みとして掲げる「具体的な取組」72 施策（第３章、35 頁参照）のうち、特に重点的に取り組んでいくものとして新たにまとめたもので、本計画策定時に住民が主体となった“みたけエーコと考え隊（本計画策定会議）”で出たアイデアが多く盛り込まれています。計画期間は平成 29（2017）年度から平成 33（2021）年度までの５年間で進めていくものです。

重点エコプロジェクトの項目は４つ掲げていますが、これを推進するための基本となる取り組みとして、「ひとづくり」と「情報発信」を位置付けます。

新たな重点エコプロジェクトの構成

NEW

４つの重点エコプロジェクト

1 - みたけの里山・森林とふれあおう！　【里山保全】

テーマ１　里山・森林保全活動団体や事業者と連携した体験講座等の実施
テーマ２　里山・森林の保全を学ぶ（担い手の育成）【ひとづくり】
テーマ３　里山・森林などの資源を活用する
テーマ４　里山・森林などの現状を伝える【情報発信】

計 13 取組

2 – 貴重な生き物のことをみんなで知ろう！　【生物多様性】

テーマ１　希少野生生物のことを知ろう
テーマ２　外来種が及ぼす影響を知る
テーマ３　希少野生生物や外来種の現状を伝える（担い手の育成）【ひとづくり】【情報発信】

計 10 取組

3 - 「移動を“エコ”に！」運動の推進　【低炭素社会】

テーマ１　ノーマイカーデー運動の推進【ひとづくり】
テーマ２　公共交通機関の利用促進
テーマ３　移動によるCO_2（二酸化炭素）排出を削減
テーマ４　ノーマイカーデー運動の推進や公共交通機関の利用を伝える【情報発信】

計 13 取組

4 - 生ごみ減量と緑を育む運動の推進　【資源循環】

テーマ１　堆肥などによる生ごみの減量化【ひとづくり】
テーマ２　グリーンカーテンづくりでエコと緑を育む
テーマ３　ごみの減量化やグリーンカーテンの有効性を伝える（エコ活動）【情報発信】

計 13 取組

２つの基本となる取組　ひとづくり　情 報 発 信

プロジェクト　1　2　3　4

【里山保全】　みたけの里山・森林とふれあおう！

（１）プロジェクトにより目指す将来の姿

- 住民や事業者が里山の自然にふれ、遊びや暮らしの体験を盛んに行うことによって里山に親しみ、みんなで里山づくりに取り組んでいます。
- 里山や森林の環境が向上して、町外からも多くの人が訪れ、学び、遊び、交流するとともに、里山や森林の資源としての有効活用を工夫しています。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「里山や自然が美しい」ことに満足という住民の割合	48.0（%）	53.0（%）	住民アンケート調査による。「満足」＋「やや満足」の割合

主な担い手

・住民　・各種団体（水土里隊など）
・企業との協働による森林づくり協定締結事業者
・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校

（２）プロジェクトの狙い

本町は豊かな自然に恵まれ、私たちにとって身近な里山や森林が育まれてきた歴史があるとともに、自然のなかで「みたけの森」などの憩いの場をつくり親しんできました。

しかし、近年では、生活のための資源として、里山や森林にある薪や堆肥用の落ち葉などを採取しなくなったことから荒廃が進み、住民の意識からその大切さが薄れてきています。また、荒廃に伴い、土砂崩れや水害などの災害が発生しやすくなるほか、近年では鳥獣害の発生などが切実な問題となっており、更には、外来種の繁殖により、本来の動植物の生態系が変化しています。

里山や森林に親しむことができる場や自然を体験できる場を提供し、人々が学び、里山や森林づくりに参加する機会を充実することで、本町の里山・森林に親しみ触れ合う機会を創出していきます。

（３）具体的な取組内容

■テーマ１　里山・森林整備活動団体や事業者と連携した体験講座等の実施

- 里山の魅力を知り関心を持てるように、里山づくりに取り組む団体や事業者が連携して、子どもや親子、住民が参加しやすい体験・学習の機会を充実させます。
- 里山で憩い、遊ぶ機会を充実させるとともに、里山ならではの自然の恵みを生かす機会を提供し、里山に親しみを持ちながら再生する取り組みに結び付けます。

■テーマ２　里山・森林の保全を学ぶ（担い手の育成）【ひとづくり】

- 里山の保全は、地域とともに、森林整備活動団体や、事業者も参画して進めてきました。しかしながら、その活動が住民に十分に知られていないことから、里山再生のための担い手が不足しています。長期にわたる持続的な活動を目指して、ひとづくりを強化していきます。
- 子どもの頃から里山の大切さを感じて、生涯を通じて自然豊かな本町に誇りを持つことができるよう、里山に親しみを持ち、町外の人々とも交流しながら里山づくりを楽しむ機会を充実させます。

■テーマ３　里山・森林などの資源を活用する

- 本町では「伏見にこにこ館」などの公共施設に岐阜県産の木材を活用しています。今後も、住民が里山づくりへの関心を高めるために、間伐材や竹などの自然資源を活用する方法を検討していきます。
- これから増えると予想される空き家や遊休農地の実情を知り、所有者とともに地域においてその有効な活用を探ります。

■テーマ４　里山・森林などの現状を伝える【情報発信】

- 里山とともに保全してきた「みたけの森」や「鬼岩公園」などの豊かな自然を大切にし、里山の今の状態や課題などについての情報を提供していきます。
- 里山保全に取り組む団体や住民が、里山の良さや里山保全活動について積極的に情報を発信します。

第２章　重点エコプロジェクト

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・子どもの山遊びのきかっけとして森の遊び場をつくる。
・親子などで林業体験、間伐材でのおもちゃづくりを行う。
・親子が興味を持つウォーキングや、大人向けウォーキング、ウォーキングとともに植物などを学ぶ活動を行う。
・里山・森林保全のために木の持ち主制度を導入する。
・「みたけの森」でコンサートを行う。
・里山での暮らし体験、山菜採りや料理教室などを開催する。
・空き家と遊休農地をセットにして活用し農業体験を行う。
・水土里隊と住民との交流や将来の担い手育成講座を開催する。
・竹林の管理と竹を小片や粉状に加工して資源として生かす活動を高校や大学と連携して行う。
・ＳＮＳを活用して大学生などに活動への参加を呼びかける。

プロジェクト　1　2　3　4

【生物多様性】　貴重な生き物のことをみんなで知ろう！

（１）プロジェクトにより目指す将来の姿

- 生物多様性とは、地球上に住む全ての生きものたちの豊かな個性のつながりのことを言います。希少野生生物や外来種などの生息状況を知ることで、身近な自然の豊かな生態系についての理解が深まっています。
- 本町に生息している多様な生物を身近に観察することができます。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「いろいろな生物が生息している」ことに満足という住民の割合	35.5（%）	41.0（%）	住民アンケート調査による。「満足」＋「やや満足」の割合

主な担い手

･住民
･町生物環境マイスター、アドバイザー　･自治会
･幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校
･国、県などの機関

（２）プロジェクトの狙い

里山には多様な動植物が生息していますが、里山などの手入れが行き届かなくなったことや、外来種の流入などにより、在来動植物の生息環境が悪化し、昔からの生態系が崩れていることが見受けられます。

このため、生物の生息状況の実態を把握して、希少生物や外来種について住民が知り、関心を高めることが必要です。さらに、動植物の生息状況を直接見ることや、外来種の流入・投入防止、駆除などをみんなで進めます。

（３）具体的な取組内容

■　テーマ１　希少野生生物のことを知ろう

- 本町の自然生態系の特性について多くの人が知ることができるように、生き物の分布を必要に応じて調査し、御嵩町版レッドデータブックの改訂を検討していきます。
- 森や川の生物調査、生き物探しなど、希少種や外来種について専門家とともに実際に現場で見て学ぶための観察会を開催します。

■　テーマ２　外来種が及ぼす影響を知ろう

- 動植物の生態系への正しい理解を深めた上で、自治会や各種関係機関と協力して、外来種の生息状況調査や駆除を進めます。

■　テーマ３　希少野生生物や外来種の現状を伝える（担い手の育成）【ひとづくり】【情報発信】

- 動植物の生態系や希少種、外来種について、正しい情報を発信・提供します。
- 希少野生生物の保護や、適切な外来種の駆除などの指導ができるリーダーの養成を行います。

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・森の生物の様子を定期的な放送などで伝えたり、レッドデータブックをアプリ配信するなど、希少生物などについての情報を気軽に入手できるようにする。
・希少野生生物や外来種のマップを作成する。
・身近に見て楽しむことができるホタルが生息し続けることができるように、観察会などを開催するとともに、飼育を試みる。
・ホタルまつりなどを開催して、豊かな自然をＰＲする。
・みたけの森など身近な自然において希少種を探すフィールドワークを開催する。
・子どもと一緒に田んぼの生き物調査「田んぼの学校」を開く。
・オオキンケイギクを天ぷらにしたり、ブラックバスを釣って食べてみるのはどうか。

プロジェクト　1　2　3　4

【低炭素社会】　「移動を“エコ”に！」運動の推進

（１）プロジェクトにより目指す将来の姿

- 通勤・通学や買い物、通院などには、みんなが電車やコミュニティバスを利用しているほか、エコカーが普及するなどＣＯ２の排出が抑制されています。
- 本町を訪れる人々が電車などの公共交通機関で訪れることが多くなり、町内の観光地を散策（徒歩）や自転車でめぐって楽しんでいます。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「公共交通機関を出来る限り利用している」という住民の割合	21.3（%）	33.0（%）	住民アンケート調査による。「積極的に取組んでいる」＋「取り組んでいる」の割合

主な担い手

・住民　・商工会　・観光協会　・事業者
・各種団体（名鉄広見線を守ろう会など）
・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校

（２）プロジェクトの狙い

低炭素社会の実現を目指すために、電車やコミュニティバス（ふれあいバスやふれあい予約バス）の利用促進と利便性を高めます。住民のみならず町内外の事業者、高校、観光客など、来訪者の公共交通利用を推進します。また、来訪者用にレンタサイクルなどを利用していただく仕組みを充実して、総合的に低炭素社会を目指した仕組みを構築します。

あわせて、ノーマイカーデー運動を推進するとともに、エコカーの普及を図ります。

（３）具体的な取組内容

■　テーマ１　ノーマイカーデー運動の推進【ひとづくり】

- 自動車の利用を控える「ノーマイカーデー」に、電車等の公共交通の利用に心がけたり、徒歩や自転車の利用を心がけることに賛同する事業者や団体を募ります。

■　テーマ２　公共交通機関の利用促進

- 名鉄広見線の利用促進についてＰＲを工夫するとともに、小・中学校の学習において、公共交通機関の活用や意義を学びます。また、各種団体と連携して、沿線ツアーを開催することにより、町内外の公共交通機関利用の拡大を図ります。
- 電車の利用と合わせてコミュニティバスなどの利便性を高めるとともに、利用促進を図り、公共交通を利用することによるCO_2の排出を抑制します。

■　テーマ３　移動によるCO_2（二酸化炭素）排出を削減

- 電気自動車の急速（普通）充電器の導入を進めるとともに、設置箇所のＰＲに努め、利用率を高めていきます。また、住民や事業者が自動車の買い替えなどに際してはエコカーにすることを啓発します。
- 本町の観光を自転車で楽しむことができるように、レンタサイクル利用の促進と観光コースを充実します。

■　テーマ４　ノーマイカーデー運動の推進や公共交通機関の利用を伝える【情報発信】

- ノーマイカーデー運動について、イベント開催時や広報紙などを通じて取り組む意義などをＰＲするとともに、住民それぞれが伝え合うようにします。
- コミュニティバスと名鉄広見線の乗り継ぎなどを分かりやすく伝える工夫をします。

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・御嵩町内沿線のドラマを作成して、鉄道利用をＰＲする。
・１年に１回、町で全く車に乗らない「スーパーノーマイカーデー」を設ける。
・電車に乗ろう運動をノーマイカーデー運動と一体的に実施する。
・来訪者を増やすために“みたけ”らしい催しを充実する。
・CO_2の削減量をエネルギー（電力、ガソリン、ガスなどの）使用量、料金とともに自らチェックすることができる「見える化手帳」を配布する。

プロジェクト　1　2　3　4

【資源循環】　生ごみ減量と緑を育む運動の推進

（１）プロジェクトにより目指す将来の姿

- 生ごみの堆肥化や堆肥を活用した緑のカーテンづくりと野菜等の収穫、エコクッキングに住民が楽しく取り組んでおり、家庭から出るごみの量が減っています。
- 食と緑が循環する流れができて、住民が食生活や野菜・果物、花などの緑を育てるライフスタイルを楽しんでいます。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「生ごみを減らしたり堆肥化している」という住民の割合	47.2（%）	52.0（%）	住民アンケート調査による。「積極的に取組んでいる」＋「取り組んでいる」の割合

主な担い手

・住民　・各種団体（生活学校など）　・事業者
・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校

（２）プロジェクトの狙い

可燃ごみの量のなかで大きなウエイトを占める家庭などから出る“生ごみ”を堆肥化するなど、できるだけごみの減量化を図ります。

各家庭で生ごみから堆肥を作り、家庭や公共施設などでの緑のカーテンづくりや家庭菜園や休耕地の肥料などに使い、野菜・果実などを収穫してエコクッキングを行うなど、資源の有効活用とごみの減量を図ります。

（３）具体的な取組内容

■　テーマ１　堆肥などによる生ごみの減量化【ひとづくり】

- 生ごみの減量化を図るために堆肥化の機器（ダンボールコンポストなど）の普及に取り組みます。
- 講座開設などにより、エコクッキングに積極的に取り組むようにして、仲間との会話を楽しみながら活動の普及を図ります。
- 家庭における調理・食事の残りから堆肥をつくり、その堆肥を家庭菜園や休耕地などで利用して野菜等を栽培し、エコクッキングなどにより無駄なく食するというような循環を形成します。

■　テーマ２　グリーンカーテンづくりでエコと緑を育む

- 手軽に堆肥を使った緑化や野菜等の栽培を行う活動として、各家庭においてグリーンカーテンづくりを行い、夏の強い日差しを和らげる効果で節電することによるＣＯ$_2$排出削減を目指します。
- 栽培する植物の種類を増やしながら栽培方法を学習することや、グリーンカーテンコンテストの開催、料理の募集など、資源循環を目指した取り組みを拡大します。

■　テーマ３　ごみの減量化やグリーンカーテンの有効性を伝える【情報発信】

- イベント開催時においてごみの減量化やグリーンカーテンについて啓発します。
- 環境モデル都市として、地球温暖化などをテーマにした作品展を開催します。

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・グリーンカーテンでできた野菜を使って料理コンテストを開催する。
・堆肥化した生ごみを家庭菜園や遊休農地で活用する仕組みづくりを進める。
・グリーンカーテンのつくり方などについてＳＮＳ等で情報交換する。
・自分の出したごみの重さを量って、生ごみを少なくするなどのごみの減量を進める。
・小中学校の「弁当の日」などでエコクッキングなど調理方法を工夫したものを作る。
・ミニダンボールコンポストセットを配布する。
・資源循環に取り組む人が集い意見交換会を開催して楽しく進める。
・エコを題材とした子どもの自由研究を進め、昔の遊びを伝承する。

重点エコプロジェクトを支える　２つの基本となる取組内容

ここでは４つの重点エコプロジェクトを支え、プロジェクトとともに推進する２つの基本的な取り組みについて示します。

基本となる取組 1 2

ひとづくり

プロジェクトにより目指す将来の姿

- 学校や地域において子どもたちをはじめとする住民の学ぶ機会が増えており、本町の優れた環境を継承するよう活躍しています。
- 現在、活動をがんばっている団体などに若手の参加者や支援者が増え、活動が活性化しています。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「自身の環境に対する意識が高い」という住民の割合	19.5（%）	25.0（%）	住民アンケート調査による。「とても高い」＋「どちらかというと高い」
「今後、環境に関する活動を行ってみたい」という住民の割合	27.2（%）	32.0（%）	住民アンケート調査による。

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・住民による環境サミットの開催により人材を発掘する。
・「みたけの森学」指導者養成講座を開催する。
・川の清掃後にバーベキューなど参加者の親睦を深める。
・親子で参加する分別収集キャンプを開催する。
・ごみ拾いにゲームの要素を取り入れるなど楽しく活動を行う。
・森に落ちている木を使って火おこし体験とバーベキューを行う。
・環境モデル都市をテーマにした子どもの自由研究を進める。
・子ども向けデイキャンプを開催して食を通じて環境について学ぶ。

基本となる取組　1　2

情報発信

プロジェクトにより目指す将来の姿

- 環境基本計画や環境モデル都市の概要や取り組みについて知っている住民が増え、興味・関心が高まっており、活動も盛んになっています。
- 住民や事業者が積極的に活動に取り組みながら、本町の良いところや、環境活動の楽しさについて情報発信しています。

■目標指標（住民アンケートによる）

指標名	現状値（平成 28 年度）	平成 33 年度目標	注　釈
「町環境基本計画を知っている」住民の割合	59.7（%）	65.0（%）	住民アンケート調査による。「内容を知っている」＋「計画名は聞いたことがある」
「御嵩町の環境はすばらしいと自慢できる」という住民の割合	26.2（%）	31.0（%）	住民アンケート調査による。

☆「みたけエーコと考え隊」から出たアイデア☆

・ＳＮＳを利用してフォトコンテストの開催や環境活動をアピールする。
・コンビニやスーパーで手に取ることができるフリーペーパーを作成する。
・広報紙の字を大きくする、催しなどの予定を伝えるなど誰でも見たくなるものにする。
・有名なブロガーに取り上げてもらう。
・「環境モデル都市シール」を作成して各家庭で身の回りに貼る。
・ただの資源でも価値があることを理解するために「わらしべ長者コンテント」を開催する。
・エコ活動（行動）が苦にならず楽しくなるような工夫をして、楽しさをアピールする。

４つの重点エコプロジェクトの具体的な取組

１　【里山保全】　みたけの里山・森林とふれあおう！

	テーマ	取組内容	協力団体担い手など	現在	５年後の成果	関連施策No.
①	里山・森林整備活動団体や事業者と連携した体験講座等の実施	親子などを対象にした林業体験講座の実施	・住民 ・各種団体（水土里隊など） ・企業との協働による森林づくり協定締結事業者 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校	２講座	２講座を継続	No.12
②		山の恵みを知ることや、山菜取り、山菜料理体験を実施		１体験	１体験を継続	No.12
③		里山・森林を知る散策ルートなどのリニューアル		未実施	考案中	No.12
④	里山・森林の保全を学ぶ（担い手の育成）	幼・保・小・中・高等学校での環境教育（森林環境学習含む）や生涯学習講座で里山・森林の現状を学ぶ		小・中・高校で実施中	幼・保の実施を検討	No.62
⑤		児童生徒を対象にした林業体験の実施		未実施	事業を展開	No.12
⑥		里山・森林整備活動団体（事業者含む）のメンバーを増やす		水21名 企２団体	水40名 企４団体	No.12
⑦		里山・森林保全の先進地で視察や体験研修を実施		１研修	１研修を継続	No.62
⑧	里山・森林などの資源を活用する	空き家などを活用した農業体験の実施		未実施	事業を展開	No.20
⑨		間伐材や竹の利活用の検討（薪やスプーン、おもちゃづくりなど）		未実施	検討中	No.13
⑩	里山・森林などの現状を伝える	イベント開催時にＰＲブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やＨＰ（ＳＮＳ含む）、ＣＴＫなどを活用し、広く周知する		－	－	No.64
⑪		各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する		－	－	No.64
⑫		里山・森林整備活動団体や住民から情報収集を行うとともに、里山・森林整備活動団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める		－	－	No.66
⑬		里山・森林への視察などを受け入れる		随時	継続	No.11

【メモ】⑥の「水」は水土里隊、「企」は企業との協働による森林づくり締結事業者を指します。

２　【生物多様性】　貴重な生き物のことをみんなで知ろう！

テーマ		取組内容	協力団体担い手など	現在	５年後の成果	関連施策No.
①	希少野生生物のことを知ろう	生物環境アドバイザーや有識者などと連携し、必要に応じて御嵩町版レッドデータブックの改訂を検討	・住民 ・町生物環境マイスター、アドバイザー ・自治会 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校 ・国、県などの機関	第三次改訂版	改訂版を検討	No.1
②		みたけの森などで自然観察会や生き物調査などの実施		未実施	事業を展開	No.3
③		希少野生生物などが生息する貴重な場を見て知っていただくための整備をボランティア団体（個人含む）などとともに進める		未実施	整備方針策定	No.3
④		幼・保・小・中・高等学校での環境教育や講師派遣講座などで希少野生生物の現状を学ぶ		小・中・高校で実施中	幼・保でも実施	No.62
⑤	外来種が及ぼす影響を知ろう	自治会と連携した外来種（ｵｵｷﾝｹｲｷﾞｸやｱﾚﾁｳﾘなど）の生息調査		未実施	マップの作成	No.5
⑥		自治会や各種機関と連携した外来種の駆除活動の実施		未実施	活動を展開	No.5
⑦	希少野生生物や外来種の現状を伝える（担い手の育成）	イベント開催時にＰＲブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やＨＰ（ＳＮＳ含む）、ＣＴＫなどを活用し、広く周知する		－	－	No.64
⑧		各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する		－	－	No.64
⑨		環境保全団体や住民から情報収集を行うとともに、環境保全団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める		－	－	No.66
⑩		希少野生生物の保護や外来種の適切な駆除・指導ができるリーダーの養成		未実施	ﾘｰﾀﾞｰが生物環境ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰになる	No.2

３　【低炭素社会】　「移動を“エコ”に！」運動の推進

	テーマ	取組内容	協力団体担い手など	現在	５年後の成果	関連施策No.
①	ノーマイカーデー運動の推進	ノーマイカーデー運動賛同事業者・団体を増やす	・住民 ・商工会 ・観光協会 ・事業者 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校 ・各種団体（名鉄広見線を守ろう会など）	21 団体	26 団体	No.57
②		ノーマイカーデー運動賛同事業者・団体の活動実績報告を公表		未実施	公表済	No.57
③	公共交通機関の利用促進	小・中学校で名鉄広見線は地域にとって必要な社会インフラとの認識を高める交通環境学習を推進		全小・中学校で実施	全小・中学校で実施	No.57
④		コミュニティバスの利用者を増やす		25,923 人（H27）	29,000 人以上（H33）	No.57
⑤		コミュニティバスのバス停や運行ダイヤ等の見直し		随時	随時	No.57
⑥		沿線お出かけイベントなどで名鉄広見線（定期外）利用者を増やすとともに利用プラスワン運動の推進		178,057 人	180,000 人	No.57
⑦	移動によるCO_2（二酸化炭素）排出を削減	電気自動車の急速充電器利用者（御嵩駅前駐車場）や各企業の普通充電器の利用者を増やす		60 回/月（御嵩駅前 P）	70 回/月（御嵩駅前 P）	No.53
⑧		御嵩駅のレンタサイクル利用者を増やす		279 人（H26）	418 人（H31）	No.53
⑨		自転車移動ができる魅力ある観光地巡り旅の考案		未実施	考案済	No.53
⑩	ノーマイカーデー運動の推進や公共交通機関の利用を伝える	イベント開催時にＰＲブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やＨＰ（ＳＮＳ含む）、ＣＴＫなどを活用し、広く周知する		－	－	No.64
⑪		各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する		－	－	No.64
⑫		各種団体や住民から情報収集を行うとととともに、各種団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める		－	－	No.66
⑬		コミュニティバスや名鉄広見線の乗り継ぎなどを分かりやすく表示する		未実施	表示済	No.57

４　【資源循環】　生ごみ減量と緑を育む運動の推進

テーマ		取組内容	協力団体担い手など	現在	５年後の成果	関連施策No.
①	堆肥などによる生ごみの減量化	各家庭において生ごみの堆肥化に取り組む	・住民 ・各種団体（生活学校など） ・事業者 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校	280 人	430 人	No.41
②		ダンボールコンポストなど堆肥化する機器の普及（補助金の活用）		280 人	430 人	No.41
③		各家庭でできた堆肥をポイント化する制度を構築		未実施	100 人	No.41
④		料理教室やエコクッキング講座の実施		年１回 20 人	年３回 100 人	No.41
⑤		町民菜園を有効利用して堆肥を利用できる仕組みを作る		未実施	４菜園で実施	No.41
⑥	グリーンカーテンづくりでエコと緑を育む	各家庭や事業所においてグリーンカーテンづくりに取り組む		－	－	No.25
⑦		住民と行政の協働により公共施設にグリーンカーテンなどで空間の緑化を実施する		12 施設（全 28 施設）	全公共施設にて実施	No.25
⑧		グリーンカーテンコンテストや育った食材で作るお料理アイデアの募集		未実施	ｲﾍﾞﾝﾄ実施済	No.25
⑨		グリーンカーテンと節電などでＣＯ２排出量削減を目指す		17.6万t-CO_2（H21）	15.9万t-CO_2（H30）	No.53
⑩	ごみの減量化やグリーンカーテンの有効性を伝える	イベント開催時にＰＲブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やＨＰ（ＳＮＳ含む）、ＣＴＫなどを活用し、広く周知する		－	－	No.64
⑪		各種団体などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する		－	－	No.64
⑫		各種団体や住民から情報収集を行うとともに、各種団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める		－	－	No.66
⑬		環境モデル都市として、地球温暖化や温室効果ガス削減をテーマにした作品展の開催		未実施	実施中	No.53